

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-83C	16-120	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Fiber intake modulates the association of alcohol intake with breast cancer. 食物繊維摂取が飲酒と乳がんの関連に与える影響		
執筆者		
Kaaks R, Boeing H, Trichopoulou A, Lagiou P, Trichopoulos D, Palli D, Sieri S, Tumino R, Vineis P, Panico S, et al.		
掲載誌		
Int J Cancer. 2017 Jan 15;140(2):316-321. doi: 10.1002/ijc.30415.		
キーワード		PMID
食物繊維、飲酒、乳がん		27599758
要 旨		
目的： 飲酒は乳がん罹患を高める要因であり、食物繊維は乳がん罹患を下げる要因であるとされてきた。一方で、食物繊維の発がん予防効果については、論争が残るところである。本研究の目的は、乳がん罹患に対する、飲酒の効果と食物繊維の効果の修飾を評価することである。		
方法： 本研究は、European Prospective Investigation into Cancer and Nutrition (EPIC)研究データが用いられた。EPIC 研究では、ヨーロッパ 10 か国における 35-70 歳の 334,850 人の女性が登録され、平均 11.0 年の追跡が行われた。食物繊維・飲酒は登録時に調査され、飲酒量の計算は国ごとの質問指標から計算された。飲酒量と食物繊維摂取量の違いと乳がん罹患リスクの評価はハザード比によって行われた。		
結果： 総人年は 3,670,439 人年であり、11,576 人の乳がん罹患が診断された。低い食物繊維摂取(1日 18.5 g 未満)では、飲酒が 1日 10 g 増加するとハザード比は 1.06 (1.03-1.08)倍であった。一方で、高い食物繊維摂取 (1日 24.2 g 以上)では、1.02 (0.99-1.05)倍であり、交互作用がみられた (p=0.011)。交互作用効果は野菜からの繊維について強くみられた。		
結論： 食物繊維摂取には、飲酒と乳がんとの関連に交互作用の効果があることが示された。飲酒量が多く、食物繊維摂取が少ない人は最も乳がんリスクが高いと考えられる。また、主に野菜からの食物繊維の乳がん予防への影響が示唆されたが、食物繊維内の細かい栄養源とそのメカニズムについては更なる研究が必要である。		